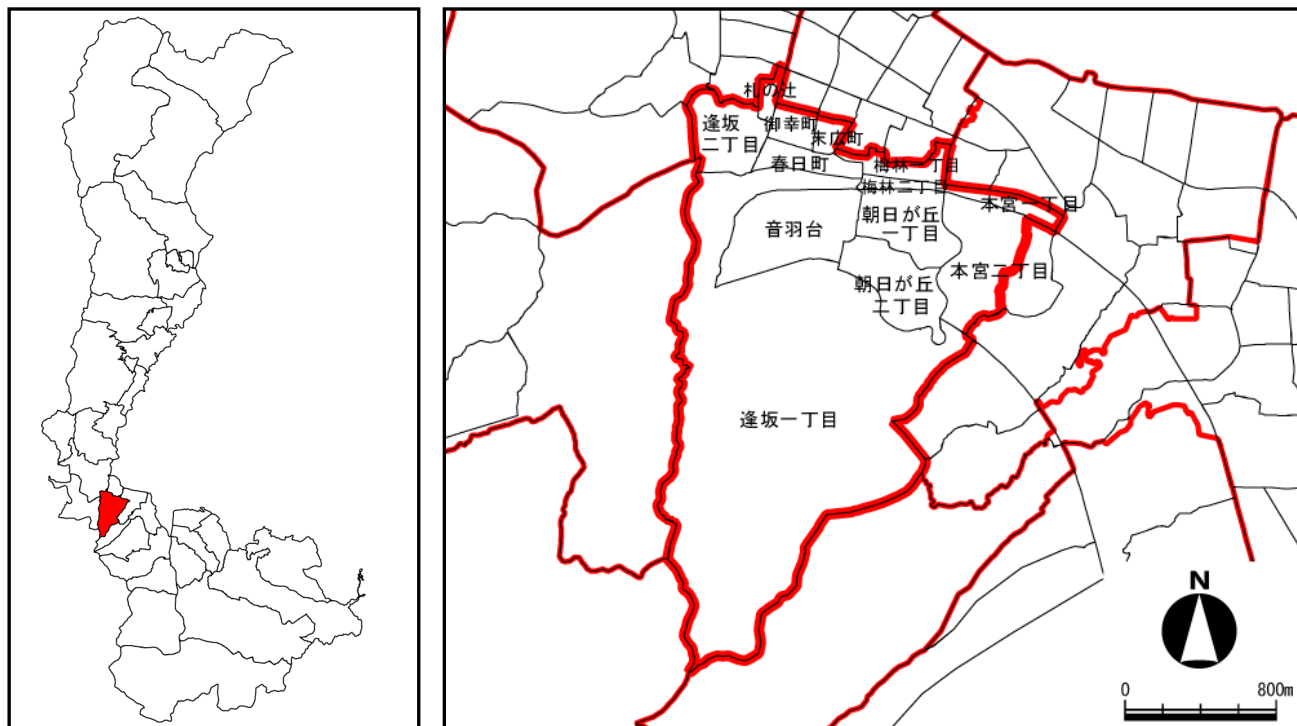


■ 学区の概況



<町丁名>

梅林一丁目、梅林二丁目、末広町、春日町、御幸町、逢坂一丁目、逢坂二丁目、札の辻、音羽台、朝日が丘一丁目、朝日が丘二丁目、本宮一丁目、本宮二丁目の一部

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

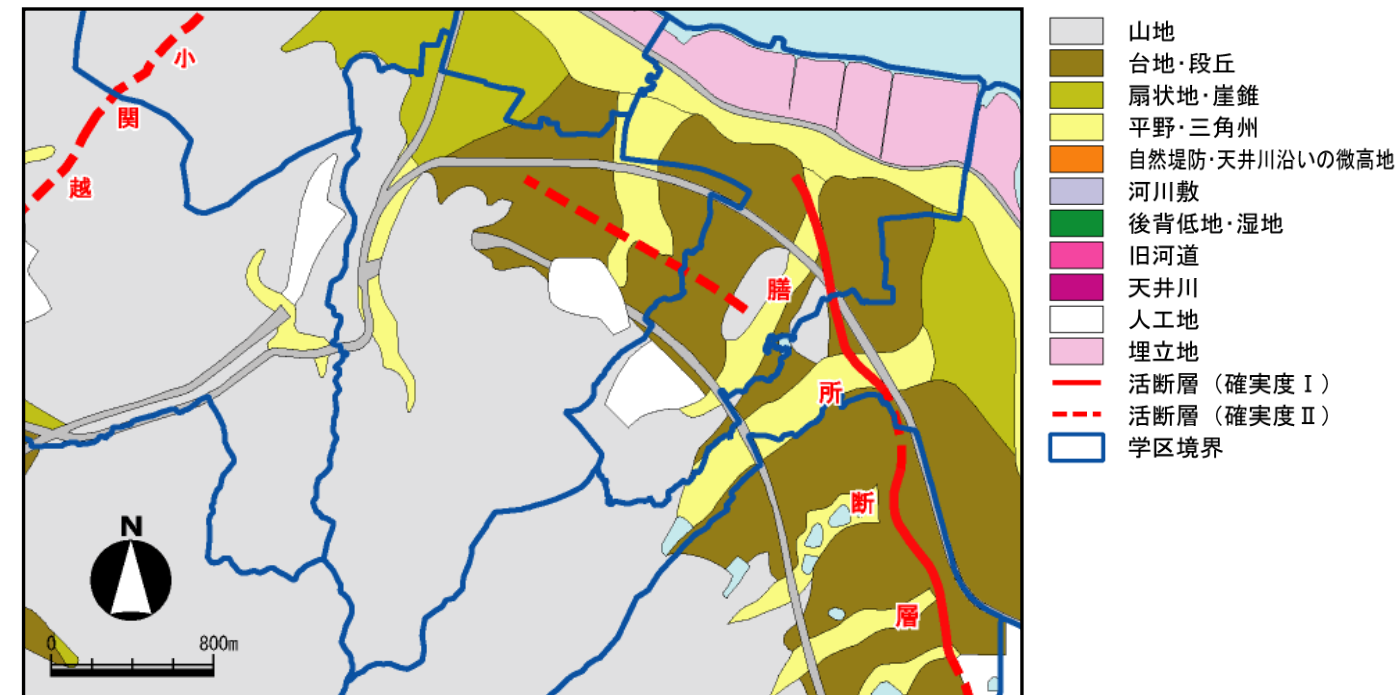
<学区の特徴>

逢坂山の北麓一帯に広がり、琵琶湖を見渡せる位置にある。8世紀になると、和歌の中にしきりに詠み込まれるようになり、安養寺や関寺、蟬丸神社、近松別院などへの参詣の人々で賑わった。

近年に入り東海道が整備されると街道筋として栄え、交通の要衝となった。逢坂山の常夜灯はそのシンボルである。今日も JR 大津駅や国道 1 号、名神高速道路大津インターチェンジなど、名実ともに大津の玄関口となっている。

逢坂山、長等山、東海自然歩道などには豊かな自然が残っており、ハイキングを楽しむ人が多い。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 逢坂学区の地形の大部分は山地であり、南東端には音羽山がある。
- JR 琵琶湖線の周辺は扇状地や丘陵に区分されている。扇状地の幅は本宮二丁目付近を境に西側と東側で異なる。これは、山地の前面に丘陵・台地が存在する場合、山地から供給された土砂は丘陵間で堆積してしまい、低地に扇状地を作る土砂の量が少なくなるためである。

<地質の特徴>

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 学区の北東側には、膳所断層の一部が通過している。膳所断層の主要部分は、馬場から国分付近までのびる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。
- 膳所断層のうち学区を通過する部分は、朝日が丘から竜が丘付近まで分布する確実度 II の活断層で、断層を挟んで相対的に北東側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) <sup>(注1)</sup>	不燃領域率 (%) <sup>(注2)</sup>	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
梅林一丁目	82.2	75.8	67.1	66.9
梅林二丁目	89.2	84.3	70.8	61.8
末広町	140.2	82.3	61.4	90.2
春日町	81.7	97.6	33.9	9.5
御幸町	121.1	72.3	76.3	68.9
逢坂一丁目	80.4	98.3	81.1	74.1
逢坂二丁目	114.2	87.1	93.4	86.7
札の辻	119.3	74.0	71.3	61.2
音羽台	62.0	92.4	73.6	52.8
朝日が丘一丁目	83.8	72.9	76.0	55.9
朝日が丘二丁目	72.2	82.4	59.3	33.1
本宮一丁目	138.6	81.4	55.2	56.3
本宮二丁目	74.6	79.3	64.9	48.0
学区平均	84.6	92.7	70.8	60.1
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 84.6 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha を大きく上回り、市内で 2 番目の高さである。
- 不燃領域率の学区平均は 92.7% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、逢坂二丁目 が 93.4% で最も高く、春日町 が 33.9% で最も低い。学区平均は 70.8% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、末広町 が 90.2% で最も高く、春日町 が 9.5% で最も低い。学区平均は 60.1% で市平均 40.3% より高い。

■ 人口の状況

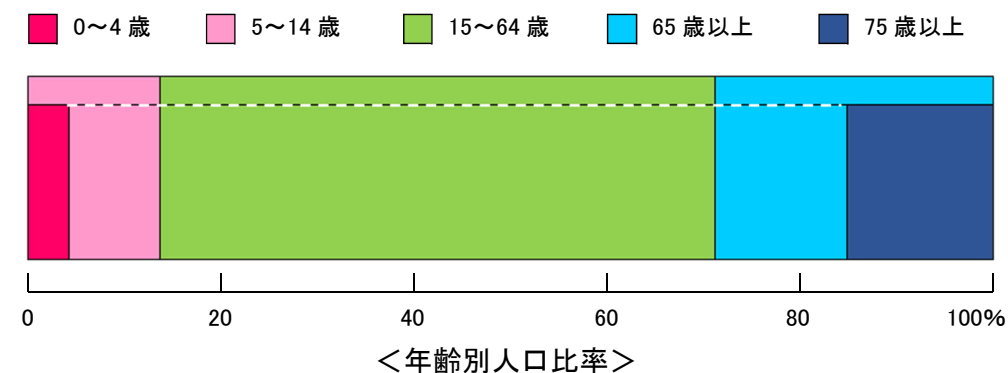
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	8,452	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	357	人	学区人口に対する割合	4.2	1
年齢別 (5~14 歳)	797	人	学区人口に対する割合	9.4	1
年齢別 (15~64 歳)	4,856	人	学区人口に対する割合	57.5	1
年齢別 (65 歳以上)	2,442	人	学区人口に対する割合	28.9	1
年齢別 (75 歳以上)	1,288	人	学区人口に対する割合	15.2	1
世帯数	4,038	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		—	2
要介護認定者	568	人	学区人口に対する割合	6.7	3
身体障害者 (要配慮者)	93	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者 (要配慮者)	24	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	110	人	学区人口に対する割合	1.3	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区北部の平野・扇状地・段丘部は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 2442 人、乳幼児 (0~4 歳) は 357 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 28.9%、4.2% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 568 人 (6.7%)、身体障害者 (要配慮者) は 93 人 (1.1%)、知的障害者 (要配慮者) は 24 人 (0.3%) である。
- 外国人居住者は 110 人 (1.3%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <sup>(注1)</sup>	25 箇所	1
土石流危険渓流 <sup>(注1)</sup>	3 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	26 箇所	2
土砂災害警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	30 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	1
浸水想定区域 <sup>(注3)</sup> (0.0m~0.5m)	0 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	0 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	0 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <sup>(注1)</sup>	1 箇所	7
重要水防区域 <sup>(注1)</sup>	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 逢坂学区の大部分は山地もしくは丘陵であり、北東部に人口が集中しているが、斜面と住宅との距離が近いのが特徴である。
- 学区内には、土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面が多く存在している。土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域には住宅地も含まれており、避難場所がこれに近接している箇所も存在するため、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して2次的災害が発生する可能性もある。
- 学区北西部を流れる吾妻川沿いの地域は、重要水防箇所に指定されており、豪雨などの場合には注意が必要である。
- 学区内には、膳所断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	逢坂小学校グラウンド	○	○	○		音羽台 6-1
	逢坂幼稚園グラウンド	○	○	○		音羽台 6-2
	逢坂保育園グラウンド	○	○	○		音羽台 6-20
	打出中学校グラウンド	○	○	○		本宮二丁目 46-1
	滋賀短期大学附属高校グラウンド	○	○	○		朝日が丘一丁目 18-1
	朝日が丘保育園グラウンド	○	○	○		朝日が丘一丁目 23-33
	逢坂市民センター	○	○	○		京町三丁目 1-3
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	逢坂小学校体育館	○	○	○		音羽台 6-1
	逢坂幼稚園	○	○	○		音羽台 6-2
	打出中学校体育館	○	○	○		本宮二丁目 46-1
	滋賀短期大学附属高校体育館	○	○	○		朝日が丘一丁目 18-1
指定避難所	打出中学校武道場			—		本宮二丁目 46-1
	(福) 朝日が丘保育園			—		朝日が丘一丁目 23-33
	(福) 逢坂保育園			—		音羽台 6-20
	(福) 滋賀保護院			—		本宮二丁目 6-45

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※ (福) 印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
逢坂市民センター	京町三丁目 1-3	524-7827

<警察 110>

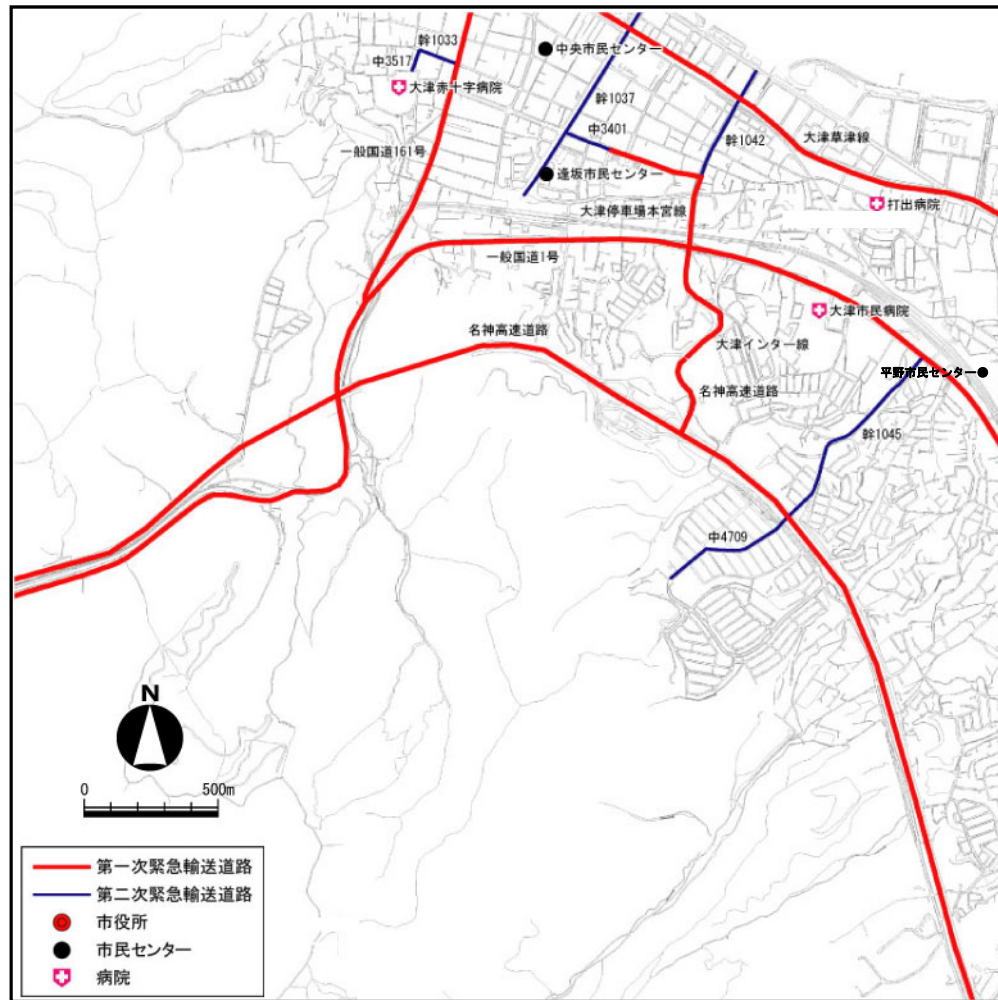
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
大津駅前交番	梅林一丁目 3-15	524-8710

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
逢坂分団	音羽台 5-1	524-4190



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
滋賀医科大学附属病院		瀬田月輪町 548-2111	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,915	7,966	417	798	816	6	7	5	161	180	130	9	9	7
ケース2	2,915	7,966	992	713	1,349	26	32	22	93	96	75	5	5	4
ケース3	2,915	7,966	414	764	796	8	10	7	131	150	108	8	9	7

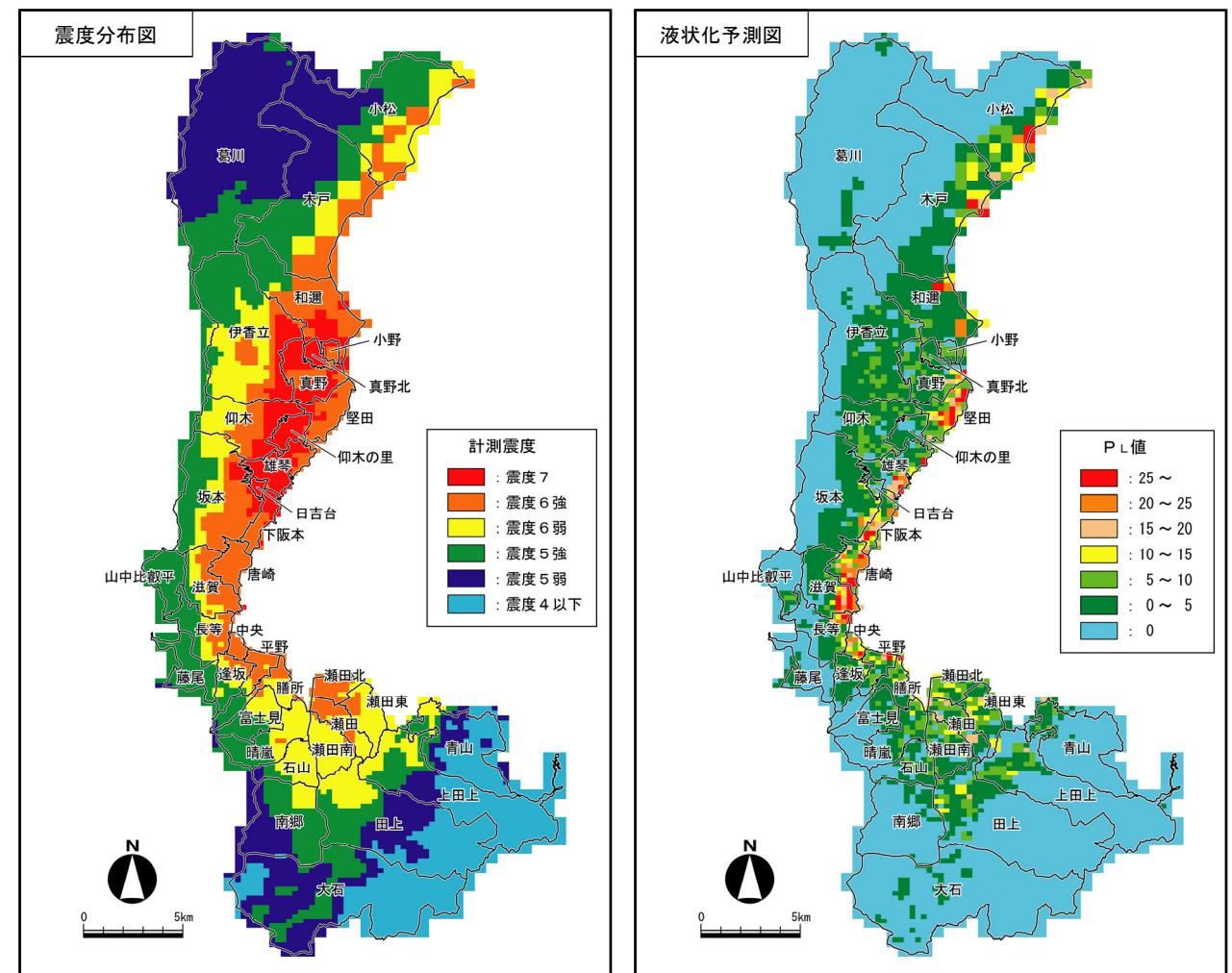
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	1	1	939
ケース2	1	2	2	1,335
ケース3	0	1	1	901

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( P<sub>L</sub> ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
P<sub>L</sub> ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

